

大学生とともに考える 住みよいまちづくり



▲出身地の祭りやよさ祭りを比較しながら提案をする田村さん

先月3日、県立広島大学三原キャンパスで、市長と同大学生がまちづくりについて意見交換を行う懇談会を行いました。

懇談会は、学生の意見を市政へ反映させることや、学生のまちづくりへの参画などを目的として、今回で3回目の開催となります。

参加した学生は、同大学1・2年生の31人。はじめに五藤市長から、市の概要説明と昨年の懇談会で出た意見や要望への回答がありました。

その後、学生が「住みよいまちづくりについて発表しました。」「よさ祭りの知名度を全国規模に。」「市立の大学、専門学校の設立。」「駅前にカフェを、

「電車で遅れが出た時のバスとの連携」など、学生ならではの意見や提案が多く出されました。

発表した2年生の田村栄治さんは、「三原で生活して感じた、もっとこうだったらいのにと思う事を発表する機会があつてよかったです」と感想を語りました。

学生から出た要望や提案は、それぞれの担当課で実現に向けて検討していきます。



▲学生の意見に市長が一つずつ回答しました

社会福祉施設を 福祉避難所として指定

市では、災害が発生した場合に、学校や公民館などの一般の避難所では生活することが困難な被災者(以下、「要援護者」)の避難先として、市内に31ある社会福祉施設を福祉避難所として

指定しました。

6月29日、7つの社会福祉法人の代表者と五藤市長が出席し、福祉避難所の運営などについて定めた協定書の締結式を行いました。

協定では、災害発生時に市からの要請に基づき、社会福祉施設が福祉避難所を設置し、要援護者の受け入れや相談などに応じることとしています。

締結式で市長は、「普段から要援護者に接しており、設備が整っている施設の協力を得ることができ、大変心強く感じています」と述べ、社会福祉法人を代表して社会福祉協議会会長の鳥羽絃史さんが「災害発生後の安心拠点として十分に機能できるよう、日ごろから努めていきます」と話しました。

※福祉避難所に指定した施設の詳細は、市ホームページに掲載しています。



▲7つの社会福祉法人31施設と協定書を締結しました

東部共同調理場が完成



▲糸崎九丁目の埋め立て地内に完成した東部共同調理場

昨年7月から工事を進めてきた東部共同調理場が完成し、先月27日に完成式を行いました。

本郷と久井の共同調理場に続き3カ所目となるこの調理場は、糸崎九丁目の埋め立て地内にあり、小学校11校と中学校7校分の学校給食(一日約5,500食)を賄います。

施設内には、食物アレルギーに対応した調理スペースや、作業のようすを見学することができるコーナーを設けています。

9月から稼働を開始します。
※施設の詳細は、来月号で紹介いたします。

☎ 学校給食課

0848-68-0141